



国際化の最前線から



大学と自治体による公共圏の形成

宇都宮大学国際学部 教授 重田 康博 (多文化公共圏センターセンター員 (グローバル担当))

多文化公共圏センターの発足

私が所属している宇都宮大学国際学部多文化公共圏センター (CMPS) は、2008年4月に設立され、11年が経過した。CMPSは、ドイツの社会学者ユルゲン・ハーバマスの「公共圏」の概念を土台にして、海外や栃木県内外の大学、自治体や関係団体とネットワークを形成し、情報を交換し、グローバル化に関わる共同研究や共同事業を通じて課題の解決や合意形成を目指すことを目的にしている。

CMPSの現在の主な事業は、①グローバル教育セミナー (直近の第10回は「水問題とグローバル教育」をテーマに開催)、②「国際交流都市日光の再発見！」(CMPSと日光市国際交流協会)、③福島原発震災に関する研究フォーラム、④HANDSプロジェクト (外国人児童生徒教育研究プロジェクト) などである。

自治体との公共圏形成の模索

CMPSは、自治体とも協力し公共圏形成のための事業を行っている。日光市との主催事業である「国際交流都市日光の再発見！」は、2015年度から「外国人留学生と留学経験から見る日光の観光開発プラン『世界遺産+1』」を契機に開始され、2016年度は日光・東照宮地区、中禅寺湖地区で「日光のもう一つの地域発展プラン」、2017年度は『「まちづくりと観光開発」を留学生と考



2017年12月10日日光・栗山・湯西川にて記念撮影

える」をテーマに日光・東照宮地区、栗山・湯西川地区で実施し、2018年度は『「足尾の歴史を活かした観光地づくり」を国際的視野から考える』というテーマで各々フィールドワークを行い、シンポジウムを開催した。

以上の通り、CMPSは「国際交流都市日光の再発見！」の事業において宇都宮大学外国人留学生・日本人学生や日光市国際交流協会の関係者と共に、将来の日光市の新しいまちづくりと観光開発の可能性を考え模索している。

プロフィール

重田 康博 (しげた やすひろ)

現在、宇都宮大学国際学部教授・国際学部附属多文化公共圏センターセンター員 (グローバル担当)
ロンドン大学大学院東洋アフリカ研究所 (SOAS) 開発学科修了 (開発学修士)、北九州市立大学大学院社会システム研究科博士後期課程修了 (博士・学術)。
国際協力推進協会 (APIC) 主任研究員、クリスチャン・エイド客員研究員 (イギリス・ロンドン)、NGO活動推進センター (現、国際協力NGOセンター、JANIC) 主幹を経て現職。専門は国際開発研究、国際NGO研究。JANIC政策アドバイザー、JICA環境社会配慮助言委員、開発教育協会評議員。近著、『激動するグローバル市民社会—「慈善」から「公正」への発展と展開』(明石書店、2017年)、西あい/湯本浩之編著『グローバル時代の「開発」を考える』第2章 (明石書店、2017年)、他。



2018年11月17日日光・足尾銅山にて記念撮影